

2021年12月27日

環境大臣

山口 壯 様

一般社団法人北海道自然保護協会

会長 在田 一則

日高山脈襟裳国定公園の国立公園昇格に関する要望書：

とくに不要な名称変更をしないことの要望

貴職におかれては、標記の国立公園昇格の諸準備を進められているとお聞きしておりますが、この件はわが国の自然保護・生物多様性保全の上から真に重要であり、敬意を表します。

当協会は、2006年1月30日に小池百合子環境大臣に対して、また2010年10月23日には松本 龍環境大臣に対して、日高山脈襟裳国定公園の国立公園昇格に関する要望書を提出しております。そこでは、自然の特質（地質・地形・植生・動植物など）に共通性が高い夕張山地（富良野芦別道立自然公園）を合わせて一つの国立公園に指定することを要望しました。また、これらの要望に先立つ2003年4月14日、環境省自然環境局長および林野庁長官に対して、世界自然遺産の候補地選定に際しては、大雪山（国立公園）と知床（国立公園）を合わせた地域、日高山脈（国定公園）と夕張山地（道立自然公園）を合わせた地域など、北海道から複数地域の指定を要望しました。このような要望は、北海道において、全国レベルかつ世界レベルで高

い資質を有する自然が多数残されていることを示しております。

貴職が進められている国立公園昇格は、指定地域を現在の日高山脈襟裳国定公園の範囲を核として日高山脈の山腹や山麓へ拡大することを検討されている段階と報道されております。

以下では、わが国ではもっとも原生的自然に恵まれた国立公園としての日高山脈の特質を述べ、新たな名称に「十勝」を加えることに反対する理由を述べます。

日高山脈の自然の特質に応じた保護重視かつ賢明な利用を考えた国立公園を望みます

日高山脈の自然は、上記要望書に明記したように、高い植生自然度やわが国第一位の原生流域など原始性に特徴があります。それ故に、日高山脈は、IUCN（国際自然保護連合）が定義する国立公園（カテゴリーII）に合致し、国際的にも国立公園と認められる高い資質を有しております。また、土地所有に関しては、国有林と道有林（国・公有地）の割合が非常に高いこと、そして林業・国土保全・生物多様性保全を目的に挙げている国有林や道有林との密な連携が考えられることから、日高山脈はわが国最高レベルの国立公園になると期待されます。

具体的には、南北120km余の長大な日高山脈において、北海道の多様な動物が生息すること、特異な地質と結びついた固有植物をはじめとして希少植物が多いこと、氷河に削られた圏谷地形（カール）において地形変化に応じた明瞭な植生配列が見られること、急斜面に成立するダケカンバ林の発達が顕著なことなど、他地域とは異なる様々な自然の特質が認められます。

他方、峻険な日高山脈では、林道以外の車道は山麓部に限られ、また登山路が設けられた山岳が少ないため沢登りという熟練者向きの登山の場が多い状況です。そのため、一般の人々が気楽にアクセスでき自然に親しめる場は、地形が緩やかな山麓部に多くなります。このことは、

国立公園の目的（景観の保護と利用、生物多様性の確保）に関わって、過剰利用を避けるためにも、とりわけ賢明な利用を考慮する必要があります。国立公園昇格に伴って、車道掘削など新たな開発行為は避けなければなりません。保護と利用に関して、日高山脈の自然の特質を失わない最大限の工夫が必要ですが、むしろ現行の国定公園指定地域から拡大される山麓部での賢明な利用が考えられます。国立公園昇格によって、日高山脈の自然保護・生物多様性保全に効果的な対策が現状以上に講じられることを望みます。

国立公園の名称に十勝を加えることに強く反対します

2021年4月24日や5月17日の十勝毎日新聞によりますと、日高・十勝両管内の町村会が、国立公園の名称を「日高山脈襟裳十勝国立公園」にすることを環境省に要望することに合意したと報道されています。国立公園の名称に関して、「日高山脈襟裳」に「十勝」を加える地元の要望はすでに貴職に提出されていると思われま

しかし、「日高山脈襟裳国立公園」の「日高山脈」は地域名ではなく日高・十勝両管内が共有する山脈の名称です。また「襟裳」はアポイ岳周辺・豊似湖周辺・襟裳岬周辺の保護すべき自然からなる「襟裳道立自然公園」に由来するものであり、そこに地名である「十勝」を加えることは奇異に感じられ、加える必要性はありません。

さらに、日高山脈襟裳国立公園は、日高山脈南端部にすでに指定されていた「襟裳道立自然公園」と保護地域として未指定であった長大な「日高山脈」を合わせて国定公園昇格となりました。また、阿寒摩周国立公園は2017年に阿寒国立公園から名称変更されましたが、それは元々の指定地域が阿寒湖地区と摩周湖・屈斜路湖地区を合わせた範囲であったので、国立公園

指定地域が明確に示されるように変更されたと言えます。さらに、本年3月「厚岸道立自然公園」が国立公園に昇格するに際して、「霧多布」と「昆布森」が加えられて「厚岸霧多布昆布森国立公園」となりましたが、これは「霧多布」と「昆布森」はともに保護すべき地域として道立自然公園に含まれていたためであります。これらの実態に合致した名称変更に対して、「日高山脈襟裳」に保護すべき貴重な自然が不明な「十勝」を加えることは、国立公園の対象地を不明瞭にしてしまうので、自然公園の目的を果たすためにはまったく不要です。

以上の理由から、当会は、名称に「十勝」を加えることに明確に反対します。

日高・十勝両管内において、一般の方々は車道や登山路が少ないため自然に親しむ場が少なくと考えられていると推測します。しかしながら、このことは、国立公園名に「十勝」を加えることによって解消される課題ではありません。私たちにとって、原生的な日高山脈の自然を新たな国立公園とし、それを保護した上で賢明な利用方法を熟慮していくことが重要と考えます。